

最近のルワンダ事情

小峯茂嗣・ARC 事務局長担当運営委員が、客員教員を務めている早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター（WAVOC）主催「ルワンダ・プロジェクト」の引率で、9月にルワンダを訪問しました。最近のルワンダの様子を報告いたします。

バイクタクシー禁止騒動

キガリ市民の重要な交通手段の一つに、「ピチピチ」と呼ばれているバイクタクシーがあります。バイクの後部にお客を乗せるタクシーです。市内にはミニバスも走っており、料金は安いのですが、決められた路線しか走りません。乗用車タクシーもありますが、やはり高い。そういうわけでバイクタクシーがそこそこの値段であちこちに行けるので、重宝されていました。

しかし8月にキガリのバイクタクシーに「禁止令」が出されました。外国人客を乗せたバイクタクシーが交通違反のあげく事故を起こしたことが原因とのことです。市内からは見慣れたバイクタクシーが姿を消しました。しかし「市民の足」バイクタクシーがなくなったことは、人々にとっては大問題。ついには新聞紙上でも問題になり、結局キガリ市と警察は部分的に解禁するということになりました。かくしてキガリの町には再びバイクタクシーが戻ってきたのです。でもキガリを旅行する人にはあまりお勧めしません。やっぱりちょっとこわいです。



「市民の足」 - バイクタクシー

キガリの都市政策

キガリでは、2020年までに低所得者層が住むような低層の建物はすべて建て替えなければならないとされています。都市の美観を整えるためらしいですが、そのような家に住む人々すべてが家を建て替えられるとは到底考えられません。結局は立ち退きを迫られるみたいです。キガリの人口は100万人と言われ、人口の1割以上が居住していることとなります。人減らしも目的のひとつなのかもしれません。「キガリは金持ちだけの街になる。貧乏人はキガリを出て行かなければならないから...」と、あるルワンダ人が言っていました。



丘の上にひしめく貧困層の住居

携帯電話事情

キガリでは携帯電話が爆発的に普及しています。町と町の間では電波が通じないところもありますが、主だった地域では使用可能です。電話機はルワンダ人にとっては決して安いものではないと思いますが、普及の理由の一つとしては「すぐに使える」、「通じやすい」ということがあるのではないのでしょうか。通常の有線の電話は、申し込んでから使用できるまでに時間がかかり、また停電になると使用できません。キガリ市内の商店の看板では、店の電話番号が携帯電話の番号だったりするものがあります。また電話料金はプリペイド式となっています。「Air Time」というカードを買って、それをスクラッチして出てきた番号を電話機に打ち込みます。すると電話料金がチャージされるのです。そういうわけで、できるだけ自分の電話料金をセーブしたいと誰もが考えます。セーブしたいけど用事があれば話したい。そんな時ルワンダの人はどうするかというと、「ワン切り」 - すなわち相手の電話にワンコールして、かけなおさせようとするのです。ルワンダ人がお互いに「ワン切り」をしあっているのを見たことがあります。どちらかが根負けするまで続くのでしょうか？



これが Air Time だ！

コンゴ大統領選挙のあおり - 逃亡コンゴ人家族

キガリで宿泊したホテルに、同時期にコンゴ人の家族が滞在していました。「旅行で来たのか」と聞くと、「選挙があるから逃げてきたんだ」とのことでした。つい先日、コンゴは大統領選挙の決選投票を終えましたが、選挙期間中、候補者陣営の対立は、時には暴力事件にまで発展することもありました。この

家族のお父さんは現職大統領の対立候補者を支援していたため、自分と家族の身の危険を感じ、家族ぐるみで国外に逃れたとのことでした。アフリカの現実を垣間見る気持ちでしたが、子供たちはルワンダの学校に通ったり、サッカーボールで遊んだりと楽しんでいました。

コンゴの地下資源をめぐる問題

コンゴ民主共和国のカタンガ州生まれのルワンダ人青年に会いました。カタンガ州とは、1960年のコンゴ独立直後に分離独立問題があった地域です（「コンゴ動乱」参照）。彼は2006年4月にルワンダに戻ってきたとのこと、今は運送会社で働いています。

彼がまだコンゴに住んでいた2000年頃、北朝鮮軍がカタンガへ来たのを見たことがあるそうです。彼によると北朝鮮軍はコンゴの政府軍の訓練をしていたそうです。そしてその見返りなのか、北朝鮮軍がカタンガでコバルトを採掘していたそうです。コバルトは核関連物質です。そして北朝鮮は核開発をすすめてきました。

90年代末以来のコンゴ内戦には多くの周辺国が介入を行い、「第一次アフリカ大戦」とまで呼ばれていました。そして内戦によって、広大な国土が完全に統治されていないコンゴでは、ウランなどの核関連物質が違法に採掘されているという問題があります。つまりアフリカに平和と安定がもたらされない限り、核の恐怖は世界に拡散し続けるのです。

コンゴ動乱 1960年にコンゴ民主共和国がベルギーから独立した後一部地域、カタンガ州の分離独立をめぐる起きた内乱である。民族問題に加え、豊富な地下資源の利権、東西対立もからみ複雑な展開のなか、カタンガの白人傭兵部隊と、国際連合軍が戦闘をおこなった。1963年の国連軍の制圧によりカタンガの分離・独立の終了宣言で一応の終了をみるが、1965年、アメリカ合衆国の援助下にモブツ・セセ・セコの独裁政権が樹立するまで不安定な状態が続いた。出典: フリー百科事典『ウィキペディア』

[小峯茂嗣]

ルワンダのプロジェクト近況報告

スタッフの増古剛久が、6月からケニア・ナイロビへと移り、ルワンダでの活動について担当することとなりました。ケニアは東アフリカの玄関口で、ナイロビはルワンダからは飛行機で1時間20分のところですが、

女性職業訓練支援活動

2000年以来、現地でのカウンターパート（協力者）としてこの事業にも取り組んでいるのが、ルワンダ・キリスト教労働者協会女性部（ARTCF）です。ARTCFは女性の経済社会的な自立と向上を進めている団体です。現在は、都市部ではARCと共同で行っている職業訓練活動や、クリニックを運営しています。村落部では、成人女性の識字教育、家畜銀行（ヤギや豚を世帯に提供し、それらを繁殖させて市場で換金し、最初のヤギや豚の代金を現金もしくは現物で返済し、その後はさらに繁殖させて現金収入を向上させる活動）熱効率の良い改良かまどの普及などを行っています。ARC現地駐在員は、ARTCFと定期的に協議し、訓練プログラムの改善を行っていました。2005年の秋からは、ARCはルワンダの現地事務所業務を終了し、ARTCFを通じて職業訓練活動を継続しています。現地での活動の近況をご報告いたします。

洋裁訓練&バナナ工芸品製作訓練

ルワンダの首都キガリ市のピリョゴ（Biryogo）地区にある訓練所で、洋裁訓練とバナナ工芸品訓練の活動は継続しております。以前からの懸案事項でもあるのですが、修了生がその技術を生かした仕事をできる状況をどのようにしていくかが課題となっています。というのも、路上にミシンを出して商売するような活動（インフォーマル・セクターと呼ばれています）が、キガリ市の方針で禁止されるようになったからです。またミシ

ン自体をどう入手するかも修了生によっては大きな問題となっております。

アソシエーション化への取り組み

このような状況を打開するために、2003年頃から、訓練所と共同作業所を兼ねた場所の確保がARCとARTCFの共通認識となりました。現在ピリョゴで使っている訓練所は、かなり狭く、指導員ももっと多くの人数に技術指導できるのにもかかわらず、十分なスペースがありません。そこで現在ARTCFから上がってきているプランが、独立したアソシエーションを設立し、洋裁訓練活動とバナナ工芸品製作技術訓練をできる広めの作業所を賃貸し、管理人、訓練指導員、警備員を雇用し、古くなった訓練用ミシンなども買い増して、技術訓練を行うと同時に修了生が働くことができるようにしていこうというものです。

ARTCFのプランでは年間運営費用が総額約400万円となっており、その支援を3~5年続けた後、自立的にそのセンターの運営ができるようになっていきます。今後、増古スタッフが事業内容について精査し、ARTCFと検討していきます。

この訓練所の活動の目的は、雇用創出・所得向上だけではありません。ジェノサイドという同じ苦しみを背負った女性たちがともに学び、働き、自分の未来につながる技術を獲得することによって、傷つき後ろ向きになった心を癒し、未来への希望につなげるという意味もあるのです。

[小峯茂嗣]



訓練所の活動風景



クリニック支援活動

公益信託アフリカ支援基金の助成と皆様のご寄付により、ARTCF 事務所に併設されているクリニックに検査器具、検査薬を提供したことは以前ご報告いたしました。昨年の患者数についてまとめてみましたので、ご報告いたします。やはりマラリアとHIVが突出しています。HIVについては陽性が陰性かを確認する検査を行っています。HIV/AIDSはルワンダだけでなくアフリカでは深刻な問題です。HIV感染者は全世界で4000

万人といわれており、そのうちの約70%はサハラ以南のアフリカに集中しています。また数字は小さいですがトラウマの患者が4月に突出しています。4月は94年の虐殺の追悼の時期で、テレビやラジオでは追悼の番組が多く流れます。それが人々の虐殺の記憶を呼び起こし、普段よりも多くの人にトラウマ症状が出るそうです。4月だけ患者が多いのもその影響かもしれません。
[小峯茂嗣]



様々なエイズ予防啓発活動の説明を受けた



クリニックの運営状況について説明を受ける小峯事務局長

バッグや携帯電話をもらっても体を許してはいけないというエイズ予防啓発ポスター



2005年にクリニックを利用した人の数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
熱	20	16	2	18	6	29	14	6	10	15	10	15
マラリア	108	91	64	55	79	60	61	64	43	53	66	72
空気感染症	48	31	19	22	11	39	13	18	13	21	14	25
赤痢			1				1	1				
下痢	1	2	3	1				1	1		1	
寄生虫	31	33	25	30	42	34	32	30	28	29	38	27
皮膚病	3	2	4	4	1	1	7	9	7	2		6
眼病			1					1				
はしか											1	
口腔歯科			1				2		1			
性感染症	1	2					1		1			
HIV	64	59	60	37	54	66	84	89	92	103	121	112
トラウマ	2		3	7	1	2	2	2		2	2	2
産婦人科	1		1		1	1			2			
既往症	6	7	10	14	8	6	2	6	4	1	3	9
その他	24	25	14	17	10	4	6	7	8	6	7	4

ルワンダ子ども支援基金

・奨学金支援

2006年度(1月~12月)は、孤児院ギシンバ・メモリアル・センターの94人の生徒に奨学金支援を行いました。
支援している生徒のうち6人に話を聞きました。

[インタビュー：水川薫 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター ルワンダ・プロジェクト/早稲田大学第一文学部3年]

質問項目

名前・年齢(学年)・性別、 いつセンターに来たか、 どのような経緯でセンターに来たか、 センターでの生活はどうか、 学校で好きな科目は?、 将来の夢、 今必要なものは?、 支援者に一言

名前・年齢(学年)・性別

Ngirabaganwa Jean de Diew 12歳(小学校6年生) 男

いつセンターに来たか

2005年7月

どのような経緯でセンターに来たか

2003年に両親は病気で死亡。叔父がいたが高齢で自分の子供もいるので自分の面倒をみれず、センターに弟と共に連れてきた。姉は叔母に引き取られた。

センターでの生活はどうか

問題はない。友達も多い。

学校で好きな科目は?

英語とフランス語が好き。

将来の夢

パイロットか医者。

今必要なものは?

衣服と靴(衣服はNGOからの支給を受けておらず友達や親戚から貰っている)

奨学金の支援者に一言

日本の優しいスポンサーがいて幸せだし、感謝しています。



名前・年齢(学年)・性別

Kayinamura Rady 12歳(小学校5年生) 男

いつセンターに来たか

2002年

どのような経緯でセンターに来たか

アメリカへの里子に選ばれたがトラブルがあって行けず、センターに来た。母親はいる。

センターでの生活はどうか

友達もいるし、うまくやっている。

学校で好きな科目は?

英語とフランス語が好き。

将来の夢

ルワンダ大統領(国民を守っているし、国を愛しているから)

今必要なものは?

ブリーフケース

奨学金の支援者に一言

学費を自分や友達に払ってくれて感謝しています。



名前・年齢(学年)・性別

Irudukwnda Telibhimere 12歳 男

いつセンターに来たか

2004年

どのような経緯でセンターに来たか

父親がジェノサイドで死んだ後、母親が病気になった。母が違うセンターに連れていったが受け入れてもらえず、このセンターに来た。

センターでの生活はどうか

うまくいっている。歌やダンスが好き。

学校で好きな科目は?

語学が好き(キニヤルワンダ、英語、フランス語)

将来の夢

アーティスト(歌手かダンサー)

今必要なものは?

ノート、靴、衣服

奨学金の支援者に一言

援助を続けてほしい。継続が大事。新しい制服がほしいです。とても感謝しているし、いつか外国に行った時に会いたいです。



名前・年齢(学年)・性別

Haperimana Almand 13歳(小学校3年生) 女

いつセンターに来たか

2000年

どのような経緯でセンターに来たか

母親が死んだ後に近所の人が連れてきた。父とは離別している。

センターでの生活はどうか

問題はない。



学校で好きな科目は？

数学が好き。

将来の夢

看護師 傷ついたり色々な病気で苦しんだりしている人を助けたい。

今必要なものは？

いつも服と靴がほしいと思っている。自分が好きなものがない。

奨学金の支援者に一言

感謝しています。とても大きな活動だと思う。自分達のために払ってくれているし、今助けてもらっているから大きくなった時に人に親切に出来る。学校を卒業するまで続けてほしい。

名前・年齢(学年)・性別

Uwirbambe Erine 11歳 女

いつセンターに来たか

2003年

どのような経緯でセンターに来たか

父がジェノサイドで死に、その後母も死んで、叔母がここに連れてきた。

センターでの生活はどうか

問題ありません。

学校で好きな科目は？

数学

将来の夢

看護師

今必要なものは？

衣服と靴

奨学金の支援者に一言

感謝しています。スポンサーが訪れてくれたら歌やダンスを教えます。日本で勉強したいから、日本語を勉強しなきゃいけないです。



名前・年齢(学年)・性別

Mhawerimana Appolinalley 15歳(小学校5年生) 女

いつセンターに来たか

1999年

どのような経緯でセンターに来たか

ジェノサイドの時両親とはぐれた。その後別のセンターにいたが幼児向けだったため、いることができなくなり、このセンターに来た。

センターでの生活はどうか

友達は少ないけどいる。うまくいっている。

学校で好きな科目は？

英語とフランス語が好き。

将来の夢

看護師。いい仕事だと思うから。

今必要なものは？

衣服

奨学金の支援者に一言

生活の中でとても役立っているの、感謝しています。卒業するまでスポンサーでいてほしいです。



・水タンク使用状況

2004年にギシンバ・メモリアル・センターに水タンクを設置しましたが、その使用状況についてご報告いたします。設置後、現在にいたるまで水タンクは問題なく稼働しております。数多くの孤児が生活しているため、炊事、洗濯、トイレ、飲料のための水は常に需要があり、貯水設備の拡充が望まれていたため、今回の水タンク設置を行うことになったのですが、

これで現在は、水の問題は無くなったとのことでした。ただ今後、水洗トイレを拡充するため、その時にはまた水の需要が高まるとの話もありました。この水タンク設置事業には、公益信託アフリカ支援基金の助成金と個人支援者のご寄付を活用させていただきました。あらためて御礼申し上げます。ご協力ありがとうございました。



ギシンバ・メモリアル・センターに設置した水タンク



センターの孤児たちと小峯茂嗣事務局長

ストップ子ども兵士アクション

フットサルで国際協力！PIECE × PEACE CUP 2006 開催報告

去る2006年9月30日(土)東京都の昭和記念公園にて、PIECE × PEACE CUP 2006 が開催されました。このイベントは、中央大学総合政策学部生が中心となって活動している国際協力団体PIECE × PEACE FESTA が主催するフットサル大会で、ARC との共催で行われました。スポーツを楽しみながら、国際協力を身近に感じてもらうきっかけにしようというのが、この大会のねらいです。この大会の収益金はARCを通じて、ウガンダ・グルにある

子ども兵士のリハビリ施設に寄付されます。当日はOPEN(男女制限なし)8チーム、MIX(男女混合)4チーム、LADIES(女性のみ)4チームの計16チームによって試合が行われ、100人ほどの参加者と来場者に来ていただきました。実行委員の皆さんは、本当にお疲れ様でした。寄付金は責任を持ってウガンダでの支援活動に使わせていただきます！



入念に準備を進めるスタッフ



大会に集まった参加者



白熱する試合！



大会終了で記念撮影！お疲れ様でした～！

whitebookから「ストップ子ども兵士アクション」に100万円の寄付をいただきました！

Ad comm. group社発行の季刊本「whitebook」は、トップブランドの優良顧客20,000人に送られる非売の限定本で、毎号、チャリティ団体を取り上げるコーナーを設けております。2005年の秋発行の同誌では、ARCの「ストップ子ども兵士アクション」キャンペーンについて紹介していただきました。同年12月には同社が主催するオークション・パーティー「ホワイトクリスマス チャリ

ティ ガラ」にもご招待いただき、そこでのチャリティ・オークションから100万円を、ARCの「ストップ子ども兵士アクション」キャンペーンにあてて寄付していただきました。同社は日本にチャリティの文化を根付かせようと、このような取り組みを行っているとのことです。ご支援ありがとうございました！

関連ニュース

・ニコラス・ケイジが子ども兵士問題に200万ドルを寄付
アメリカの俳優ニコラス・ケイジ(41)が、アムネスティ・インターナショナルの慈善基金に200万ドル(約2億3000万円)を寄付しました。同団体が行っている子ども兵士の心のケアの事

業に使用されるとのことです。ニコラス・ケイジは2006年、映画「ロード・オブ・ウォー」で紛争地帯に武器を売りさばく武器商人を演じました。



歓迎の踊りを披露してくれるルワンダの村の女性

アフリカ平和再建委員会 Africa Reconciliation Committee: ARC-JAPAN

〒160-0004 東京都新宿区四谷4-6-1四谷サンハイツ511

Tel/Fax: 03-3351-0892 E-mail: info@arc-japan.org

ホームページ <http://www.arc-japan.org>

